

ところ会 5 月 OP 行事案内

県立歴史博物館と横浜中華街を巡る

オプション行事として横浜開港資料館見学と横浜中華街での昼食と中華街巡りを企画しました。

当初の予定では 4 月の最終木曜日の 4 月 27 日（木）で計画していましたが歴史博物館が 4 月中は休館とのことで、計画日時から 1 か月後の 5 月 25 日（木）に変更し、実施いたします。

今回は西武横濱中華街グルメきっぷを利用しての行事となります。

記

■日 時：平成 29 年 5 月 25 日（木） 雨天決行

■集合場所：西武池袋線 所沢駅前集合 8:45

8:50 発準急元町中華街行乗車

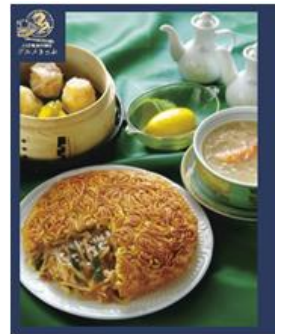
■見学場所及び時間：

所沢駅(8:50)⇒みなとみらい駅乗換馬車道駅着(10:16) ⇒県立歴史博物館(10:30～11:30) ⇒県庁(11:45～12:15) ⇒昼食(12:30～13:30) ⇒関帝廟(13:35～13:50) ⇒横浜大世界(13:55～14:15) ⇒山下公園散策(14:20～15:00) ⇒横浜大栈橋ふ頭(15:20～16:00) ⇒16:17 発日本大通り駅・乗車みなとみらい駅乗換、16:23 発 F ライナー飯能行き乗車⇒所沢駅着 17:44 (解散)

■西武横濱中華街グルメきっぷ：「乗車券」「お食事券」「お土産券」がセットされています。

■昼食場所：西武横濱中華街グルメきっぷにセットされている食事券を使用して中華料理（梅蘭金閣）を予定しています。

■梅蘭金閣料理コース：【梅欄焼きそば、フカヒレスープ、蒸し点心4種(エビ焼売、焼売、小籠包、海鮮三角包み蒸し)、デザート(マンゴープリン、杏仁豆腐どちらか選べます。)



■チケット：西武横濱中華街グルメきっぷを、各自購入下さい。

■内訳：乗車券、お食事券、お土産券ともご利用当日限り

■費用：所沢駅の場合 3,600 円

(各自乗車駅で購入、発売日：乗車日の1ヵ月前から購入可能)

■お土産券：「横浜大世界マーケット」の「横浜博覧館マーケット」で、「金ブタラーメン」や「横浜中華街ごまあられ」「むき甘栗」など 11 品のなかから 1 品と交換できます。

■見学先簡単ガイド（各種ホームページから）

□県立歴史博物館

明治 37 年に横浜正金銀行本店として建てられ、現在国の重要文化財・史跡に指定されている歴史的建造物の中に「かながわの文化と歴史」をテーマとし、神奈川の先史から現代までの資料を展示しています。

年数回は特別展も開催しており、また、1 階の無料ゾーンには、ミュージアムライブラリー、ショップ、喫茶ともしびがあります。

横浜のみなとみらい地区に隣接するなど、様々な観光施設に囲まれながら、館内では明治時代の雰囲気と神奈川の歴史に触れることができます。他の施設にはないこの空間をぜひ体験してみてください。



□神奈川県庁本庁舎

- 昭和3年(1928年)に建てられ、平成8年に国の有形文化財として登録されました。関東大震災で焼けた県庁本庁舎ご代わる4代目で、知事が執務する現役の庁舎としては、大塚庁本館ご次いで全国で2番目に古いものです。
- 日本趣味のある洋風建築で、1920年代から1930年代真ご流行したアール・デコ様式の装飾が各所に見られます。
- 横浜のシンボリック的存在であり、横浜三塔の一つ「キングの塔」と呼ばれています。(※クイーンズの塔：横浜税関本関庁舎、ジャックの塔：横浜市開港記念会館)



□ 関帝廟

関帝廟（かんでいびょう）は、関帝（関羽・関聖帝君・関帝聖君）を祀る廟。孔子を祀る孔子廟（文廟）に対比させて、**武廟**（ぶびょう）とも呼ぶ場合もある。

帝廟の本殿は中央に関羽を祭り、右側に小説『三国志演義』で養子の関平（史実では実子）、左側に同じく『演義』に登場する配下の武将周倉の二神をそれぞれ祭っている。

関羽は、信義や義侠心に厚い武将として名高くまた『演義』での普淨の逸話などから、民衆によって様々な伝承や信仰が生まれ、信仰を高め、また後の王朝によって神格化されていった。その関羽を祭ったほこらが関帝廟の始まりである。

また、関羽は（塩湖で知られた解県の出身である為）塩の密売に関わっていたという民間伝承があり、義に厚いとされる事から商売の神として祭られた。この事に起因して、そろばんの発明をしたという俗説まで生まれた。

そのため世界中に華僑が散らばっていったときに、商売が繁盛する様にとその居住区に関帝廟を立てた。そのため世界中の中華街などで関帝廟を見ることが出来る。



□ 横浜中華街関帝廟

中華街の中でのナンバー1 パワースポットが、「関帝廟（かんでいびょう）」それでは、中華街関帝廟はなぜパワースポットだと言われているのでしょうか？まず一番目の理由として、中華街は風水的にもとても良い場所なのです。また、関帝廟はその風水的に一番良い場所の中心部にあります。中華街の地図を見ると、とっても良く分かります

□ 横浜中華街

横浜中華街（よこはまちゅうかがい）は、神奈川県横浜市中区山下町一帯に所在するチャイナタウン（中華街）である。1955年以前は**唐人町**や**南京町**と呼ばれていた。華僑の出身地は広東省が比較的多いが、中国各地に分散している。上海路、中山路、福建路など、地名を冠した路地が交差しており、各路地には、



当該地の出身者が多い。所在地である中区の中国人人口は 6000 人を超える。これは同区で登録されている外国人の約 4 割にあたる。

約 0.2 平方キロのエリア内に 500 店以上の店舗があり、日本最大かつ東アジア最大の中華街となっている。1866 年（慶応 2 年）の横浜新田慰留地から数えると 150 年弱の歴史をもつことになる。日本では、神戸南京町や長崎新地中華街とともに「三大中華街」とされる。

□ 山下公園

山下公園（やましたこうえん）は、神奈川県横浜市中区山下町にある公園（風致公園）。関東大震災の復興事業として、横浜市助役だった榎岡徹らが瓦礫などを使って海を埋め立て造成して、1930 年（昭和 5 年）3 月 15 日に開園した。

面積は 74,121m²。なお、横浜市は「日本最初の臨海公園」としているが、海に面する公園が当時既に存在^{〔どこ〕}しており、定義が明確ではない。



開園後 40 年に渡り、公園前面の海面を埋め立て埠頭とする計画が提出されるも、これは実現せず、後に東の隣接地に山下埠頭が造成された。現在、同海面地下にはトンネル構造の臨港幹線道路が計画されている。

□ 横浜港大栈橋ふ頭

大さん橋（おおさんばし）は、神奈川県横浜市中区にある横浜港の港湾施設。1894 年に完成した鉄栈橋を前身とし、税関栈橋、横浜栈橋、山下町栈橋等のさまざまな名称があったが、その後、大栈橋に落ち着いた。その他、太平洋戦争後連合軍に接収されていた間は、サウスピアと呼ばれ、明治の末頃から 1970 年頃までは、メリケン波止場とも呼ばれていた。前身施設は名実ともに栈橋であったが、2002 年に完成した現在の大さん橋は構造的には「栈橋」ではなく「岸壁」であり、平仮名混じりの「大さん橋」が正式の表記である。



以上